

令和7年度 モデルプロジェクト

地域の伝統に着目した エシカル消費の普及啓発

令和8年3月

消費者庁新未来創造戦略本部



本日の内容

1. 現状・課題

2. 徳島県における取組（藍染×エシカル）

3. 愛媛県における取組（暮らしの中にあるエシカル）

4. 他の地域への展開

5. まとめ

現状・課題

- エシカル消費の認知度は、**27.1%** (※)
(令和7年度第2回消費生活意識調査結果)



- エシカル消費の一層の普及啓発には更なる取組が必要
- 地域の消費者に、エシカル消費を知り、実践してもらおう契機とすべく、エシカル消費の対象分野の中でも**地域の伝統品**に着目

※ エシカル消費について、「言葉と内容の両方知っている」「言葉は知っているが内容は知らない」と回答した人の合計
(令和7年度第2回消費生活意識調査)

本日の内容

1. 現状・課題
- 2. 徳島県における取組（藍染×エシカル）**
3. 愛媛県における取組（暮らしの中にあるエシカル）
4. 他の地域への展開
5. まとめ

徳島県における取組（藍染×エシカル）

徳島の伝統「藍染」×エシカルを テーマにしたポスターを作成・配布

【目的】

地域の伝統を通じて、その地域の消費者がエシカル消費について知り、実践する契機とすることで、エシカル消費の一層の普及啓発を図る。

【期待される効果】

ポスターの作成・配布を通じて、複数の行政部署や藍染に関わる方たち等の多様な主体との連携が期待される。また、ポスターが様々な場に掲示されることで、エシカル消費の考え方の普及につながることを期待される。

（配布数）約100枚

（主な配布先）

- ・徳島県、徳島市ほか県内自治体
- ・徳島県内の消費生活センター
- ・徳島県内の大学
- ・徳島県内の藍染関連施設
- ・徳島県内の物産施設、文化施設、観光施設等
- ・徳島県内の道の駅 等



ここがエシカル!!

藍染（阿波藍）

【地域への配慮】

- 江戸時代には、吉野川流域の土壌が藍栽培に適していたことから、阿波藍の製造が本格的に行われ、全国に広まったが、明治時代以降、化学合成藍の輸入が増大し、阿波藍の製造は衰退の一途をたどり、現在は、一部の藍師により伝統的な手法による製造が続けられ、地域資源をいかした産業を維持している。

【環境への配慮】

- 植物（タデアイ）を原料とし、葉を発酵させて染料である「すくも」を作る製法であり、環境負荷が少ない。
- 染めの工程に必要な水は、地下水を利用。（吉野川流域は、水資源が豊富）
- 染め直し等のアップサイクルが可能。

【人・社会への配慮】

- 藍染には、様々な作業工程があり、得意な作業を分担するかたちで障がい者就労支援施設等で商品づくりが行われている。

徳島県における取組（藍染×エシカル）

消費者庁主催 「みんなでエシカル」を開催

- 日時：令和7年 11月3日（月・祝）17:00～
- 場所：徳島県立阿波十郎兵衛屋敷（オンライン配信あり）
- トークセッション
 - 第1部 徳島県の歴史、文化や伝統産業等から見るエシカル消費
 - 第2部 先進的なエシカル消費の取組について

● 登壇者

- ファシリテーター：鎌田安里紗氏
（一般社団法人unisteps共同代表理事）
- 佐藤憲治氏（徳島県立阿波十郎兵衛屋敷 館長）
- 渡邊健太氏（株式会社Watanabe's 藍師・染師）
- 富永康介氏（富永ジョイナー有限会社 阿波の名工 指物師）
- 西田幸平氏（株式会社ゴールドウイン オールバーズ事業部）

● 会場参加者：78名



あいぞめ・おはしげずりワークショップ
トークセッション開催！

子ども大人も！
みんなでエシカル
（つって、聞いて、未来を学ぶエシカルデー）

藍染×エシカル
やさしいえらびかたを
みんなで考えてみよう。

11月3日（月）祝 17:00～

開催場所：徳島県立阿波十郎兵衛屋敷（771-0114 徳島県徳島市川町宮島木浦184）

子ども大人も！
みんなでエシカル
（つって、聞いて、未来を学ぶエシカルデー）

地球や人に
やさしい
えらびかたを
みんなで
考えてみよう。

11月3日（月）祝 17:00～

開催場所：徳島県立阿波十郎兵衛屋敷（771-0114 徳島県徳島市川町宮島木浦184）

徳島県における取組（藍染×エシカル）

■ 参加者の感想

本イベントを通して、参加者からは多くの気づきや学びが得られたとの評価が寄せられた。徳島の伝統産業について改めて考える契機となり、**伝統産業や技術がエシカル消費と深く関わっている点に新たな発見があった**という意見も見られた。

また、徳島のエシカル消費の要素をもつ伝統産業への理解の深まりと同時に、衣類においては素材には関心を持つ一方で、染料にまでは意識が及んでいなかったという参加者もあり、**トークセッションを通じて新たな視点を得られた**との声が寄せられた。

こうした**新たな発見や新たな視点を得たことにより**、阿波指物の美しさに感銘を受け、実物を見学したいという関心の高まりや、不要となったTシャツ等を藍染できることを知り、今後ぜひ体験してみたいという**前向きな反応にもつながった**。

■ ワークショップ（おはしけずり体験・藍染体験） 体験者：30名



おはしけずり体験



藍染体験

■ 体験者の感想

本体験に参加した多くの子どもたちからは、「**楽しかった**」「**意外と簡単にできた**」といった声が寄せられ、ものづくりを楽しむ様子が見られた。また、「**大切に使います。ありがとうございました**」といった感想から、完成した作品への愛着もうかがえた。

さらに、「**教えてくれる人がやさしかった**」との声もあり、日頃接することのない職人との交流を楽しんだことが分かるほか、「**徳島の伝統に触れることができ、すてきな経験ができました**」といった意見も寄せられ、伝統に触れる貴重な機会となったことがうかがえた。

徳島県における取組（藍染×エシカル）

四国大学の授業にて 「みんなでエシカル」のトークセッションをオンライン視聴

年月：令和7年11月

科目：デザイン論（1年次）

受講者：19名

■ 受講者の感想

- 徳島の藍染や阿波指物といった伝統文化に触れて、エシカル消費の本質を深く知ることができた。そこには、ただ古い技術を守るだけでなく、時代に合わせて変化させ、産業として残していこうとする職人さんたちの情熱があった。吉野川の洪水と上手く付き合いながらつくられてきた藍染のように、自然と密接に関わるモノ作りの奥深さも感じた。私たちは、なんとなく、昔からある当たり前のものを知ろうとしない。その上で、一つのモノがどう作られているか「本質を知る」こと、そして「知ることで見える目が養われる」という言葉が印象的だった。
- 今回の講義を聞いて、エシカルデザインはただ環境に優しいものを作るのではなく、作り手や文化にまで思いやりをもつ考え方なんだと感じた。Tシャツ一枚を作るのにも40ほどの工程があると知り、今まで何気なく買っていた服にも多くの人の手や時間が関わっていることに気づかされた。日本産の洋服が1.4%しかないという話も印象的だった。効率だけを重視すると大切な技術や文化が失われてしまうと思った。徳島の人形浄瑠璃のように、まず「知ること」から文化を守ることができるという言葉にも共感した。これからは物を買うとき、デザインの背景や作り手の思いにも目を向けるようにしたいと思った。

徳島県における取組（藍染×エシカル）

地方公共団体の消費者行政部局や伝統部門等とも連携



とくしまエシカルday（10月）



藍染手織り体験
参加者：20名



とくしま藍推進月間（7月）

徳島県消費者政策課

本年度、未来本部が進められた「伝統（藍染）×エシカル」の取組は、徳島の身近な文化を入り口としたことで、**県民がエシカル消費に触れる良いきっかけ**となりました。

「伝統の継承」という視点から、エシカル消費を意識する機会をいただいたと感じております。

各イベントを通じた実践・体感は、幅広い層への丁寧な普及啓発に繋がりました。今後もこの連携を活かし、持続可能な社会の実現に向けた取組を共に推進してまいりたいと考えております。

徳島県文化振興課

徳島県では、7月を「とくしま藍推進月間」と定め、期間中に県庁1階玄関ホールに藍のれんを設置しています。

今年度は、未来本部が作成された「エシカル」のポスターを並んで掲示することで、**自然由来の染料である藍は環境負荷が低いエシカルな存在であることを発信し、伝統文化といった側面だけでなく、「持続可能な社会に貢献するエシカルな選択肢」としての価値を提示することができました。**

今後も部局の垣根を越えた連携を図り、多角的な視点から徳島の藍の魅力を発信してまいります。

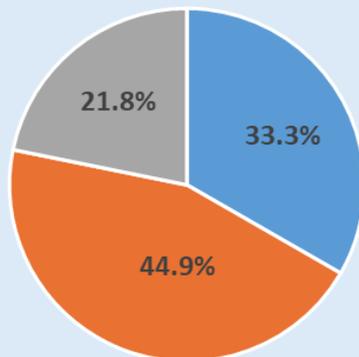
徳島県における取組（藍染×エシカル）

徳島大学での講義を実施 (令和7年12月16日) 受講者約80名



講義前のアンケート調査結果 (n=78)

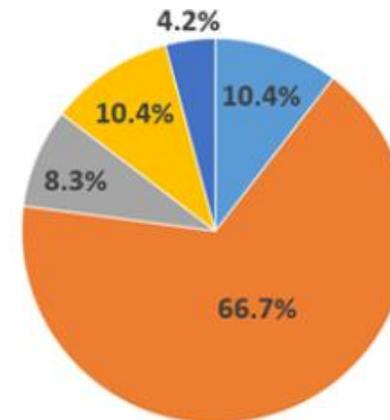
Q:あなたは「エシカル消費」という言葉を知っていますか。



- 言葉及び意味を知っている
- 言葉のみ知っている、聞いたことがある
- 知らない

講義後のアンケート調査結果 (n=48)

Q1:あなたは「エシカル消費」についてどの程度興味がありますか。



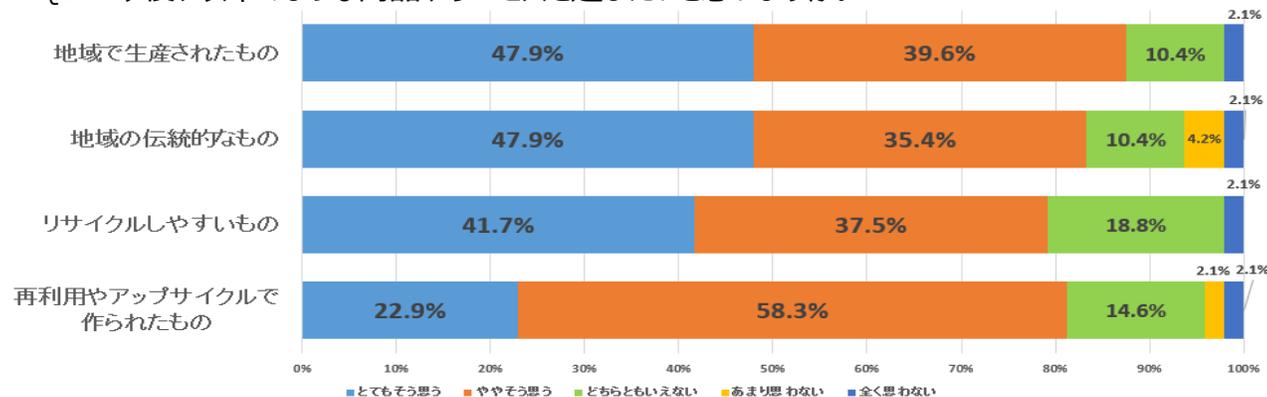
- 非常に興味がある
- どちらかといえば興味がある
- どちらともいえない
- あまり興味がない
- 全く興味がない

■ 受講者の感想

・エシカル消費は、単に「環境に良い商品を選ぶ」という行動にとどまらず、企業の生産背景、労働環境、資源の循環性など、**社会全体の仕組みを意識した消費行動**である点に魅力を感じました。講義の中で、**消費者の選択が企業の行動を変え、結果として社会課題の改善につながるという話が印象的でした。自分の購買行動が小さくても確実に社会に影響を与えるという視点は、これまでの「安い・便利」中心の選択基準を見直すきっかけになりました。**

・エシカル消費をすることで環境への配慮や被災地の復興などに加わることができると知り、少しでも力になりたいと考えるきっかけになりました。

Q2: 今後、以下のような商品やサービスを選びたいと思いますか。



徳島県における取組（藍染×エシカル）

株式会社Watanabe's代表 渡邊 健太氏（藍師・染師）

エシカル消費という言葉にはあまりなじみがなかったが、今回のプロジェクトを通じてエシカル消費についての理解が深まった。藍と向き合っていると強く感じるのは、藍染がまさに“自然からの贈りもの。”だということ。土づくりから始まり、種まき、栽培、刈り取り、乾燥、発酵を経て染（すくも）になり、その染に水や灰汁などを加え再び発酵させ染色液へと育っていく。その長い工程は、自然や土壌の力、発酵菌に委ねられた一年がかりの循環です。**エネルギーをほとんど使わず、廃液も自然に還せること、染め直しもできることなど大量生産や化学染料とは対照的で、持続可能なものづくりだと実感**します。さらに、伝統を継承しながらも、地域の養豚場の糞尿を発酵・堆肥化して活用するなど、時代と地域の環境に合わせた新しい取組にも挑戦し、やればやるほど、藍染は伝統でありながら最先端であると気付かされます。

藍染は深く知るほどに“青”の見え方が変わる。知って、理解が深まるほど、ものとの向き合い方や選び方は変わっていく。知ることこそがエシカル消費への第一歩だと思います。また、伝統は「守るために守る」のではなく、今の時代に面白さと価値を持って伝えることで未来につながっていくものだと思います。そのため、藍の魅力や背景をより深く知ってもらえるよう、藍染の工程を体感できる場づくりをしたり、学校や他業種とのコラボレーションを通して興味の入口を広げる取り組みを行っています。

ものを選ぶときには、その背景に耳を傾け、長く寄り添えるかを考えてみる「地球や人に優しい選び方」を知ることによって選択肢が広がり、そこに想いが宿ると愛着がわき、大事にしながら長く使いたくなる。その小さな積み重ねこそが、伝統を、そして未来をよりよい形でつないでいくと感じています。

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷館長 佐藤 憲治氏

阿波人形浄瑠璃は、吉野川が毎年運んでくれる肥沃な土壌が藍の栽培を支え、その藍で富を得た藍商人たちが大きな支援者となり、その経済力で発展しました。藍・塩・木材という徳島の三大産物が地域の経済力を形づくり、その豊かな経済が文化を支えてきたのです。まさに“経済と文化は両輪”だと感じています。

私は、伝統文化を「守らなければならないもの」だとは考えていません。伝統の中には、今の時代にも通じる価値感が確かに存在します。その**価値感に共感する人が増えることで、自然と受け継がれていくもの**だと考えています。

デザイナーの原研哉さんは、「繊細、丁寧、緻密で簡素な日本人の感性こそが、これから日本が世界に貢献できる資産である。」とおっしゃっていますが、伝統的なものの中にこそ、その国や地域ならではの感性が色濃く残っていると思います。人形浄瑠璃の中にも、太夫の語りや三味線の音色、3人遣いの人形の、指先まで動かすことができる繊細で丁寧な表現など、日本人らしい感性が宿っています。

環境問題をはじめ少子高齢化、都市への一極集中、国際化など、さまざまな社会問題に直面する今の時代だからこそ、伝統的な価値観や感性に触れてみることも、おもしろいと思うこと、やってみることが必要だと思います。「**伝統を残す**」より「**共感してもらおう**」ことによって、**新しい時代の新しい文化を創造していくことが、エシカルな行動につながるのではないのでしょうか。**

本日の内容

1. 現状・課題
2. 徳島県における取組（藍染×エシカル）
- 3. 愛媛県における取組（暮らしの中にあるエシカル）**
4. 他の地域への展開
5. まとめ

愛媛県における取組（暮らしの中にあるエシカル）

愛媛の伝統的特産品「砥部焼」「和ろうそく」「伊予手すき和紙」×エシカルをテーマにしたポスターを作成・配布

【目的】地域の伝統を通じて、その地域の消費者がエシカル消費について知り、実践する契機とすることで、エシカル消費の一層の普及啓発を図る。

【期待される効果】ポスターの作成・配布を通じて、複数の行政部署や伝統的特産品に関わる方たち等の多様な主体との連携が期待される。また、ポスターが様々な場に掲示されることで、エシカル消費の考え方の普及につながることが期待される。

(配布数) 約100枚

(主な配布先)

- ・愛媛県、砥部町ほか県内自治体
- ・愛媛県内の消費生活センター・消費者担当部局
- ・愛媛大学
- ・砥部焼関連施設
- ・愛媛県内の物産施設、文化施設、観光施設 等
- ・愛媛県内道の駅 等





ここがエシカル!!

和ろうそく

【環境への配慮】

- 自然由来の素材を使用。
- 廃棄物がほとんどなく、原料の多くが土に還る。

砥部焼

【環境への配慮】

- 耐久性があり長く使用できる。

【地域への配慮】

- 自治体による後継者育成。

伊予手すき和紙

【環境への配慮】

- 生産で生じた端部分や余った和紙を原料として再利用。

【地域への配慮】

- 地域の小中学生への体験学習を実施。

【人・社会への配慮】

- 作業の一部を障がい者が担っているため、就労支援につながる。

愛媛県における取組（暮らしの中にあるエシカル）

地方公共団体の消費者行政部局や伝統部門等とも連携



えひめおもいやり消費アクション（11月）

愛媛県 県民生活課

県の伝統的特産品という、これまでとは異なる視点でエシカル消費を啓発できるという発見があった。伝統的特産品は、地域で長く親しまれ、日常生活で使われるものも多くあるため、暮らしの中でエシカル消費を考えるきっかけや実践に繋がることを期待できる。今後はポスターも活用しつつ、より一層の普及啓発に取り組みたい。



砥部焼関連施設でのポスター掲示

砥部町 商工観光課

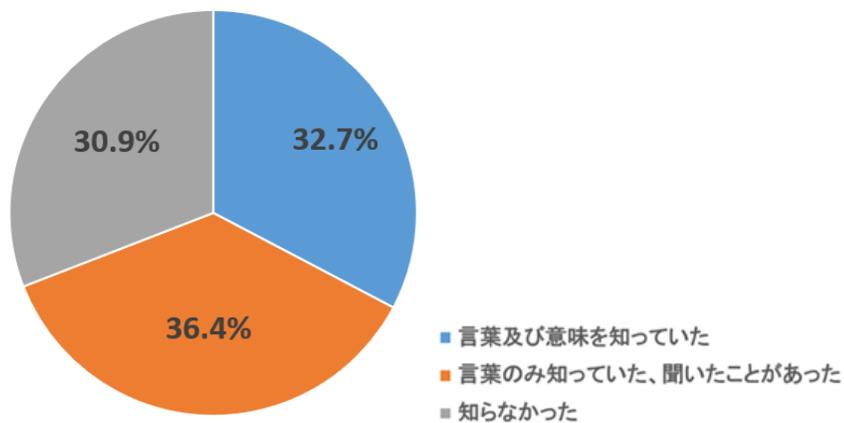
地域の伝統産業である砥部焼を切り口に、エシカル消費への理解を深める良いきっかけとなった。今後もポスターを町内の観光施設や各種イベント等で積極的に活用し、周知啓発に取り組むことで、**伝統工芸とエシカル消費の関係について広く発信し、作り手と消費者の双方における機運の醸成を図りたい。**

愛媛県における取組（暮らしの中にあるエシカル）

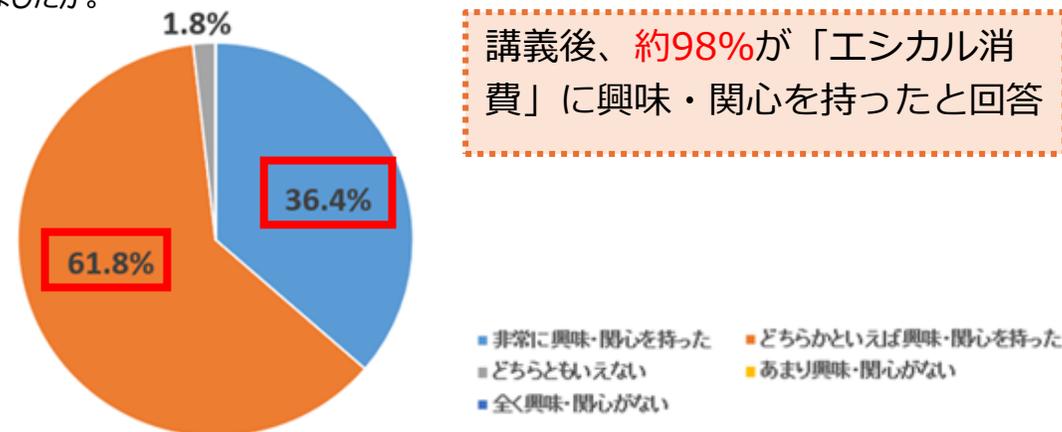
愛媛大学での講義(※)を実施（令和8年1月21日）受講者約70名（一般聴講生を含む）

講義後のアンケート調査結果（n=55）

Q1:あなたは今回の講義を受講する前から、「エシカル消費」という言葉を知っていましたか。



Q2:あなたは今回の講義を受講して、「エシカル消費」について、どの程度興味・関心を持ちましたか。

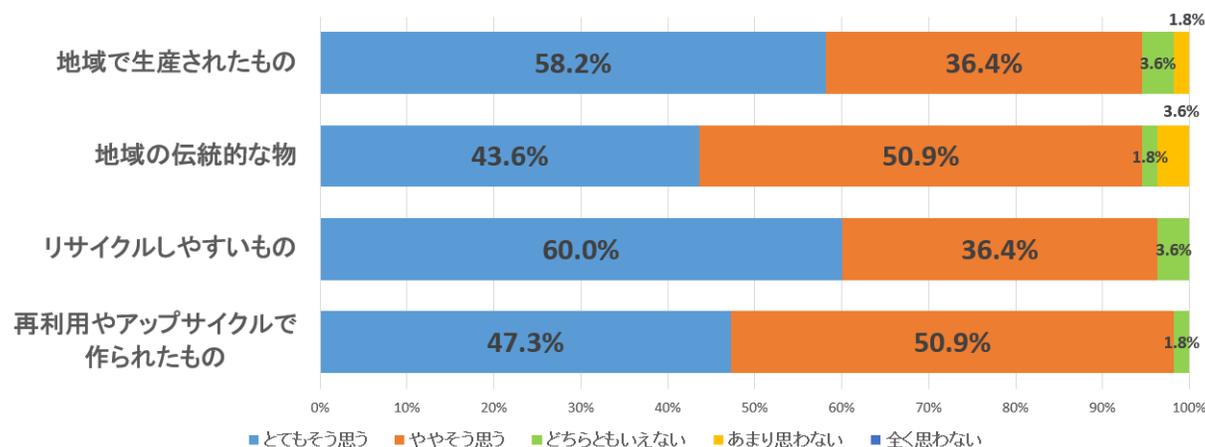


講義後、約98%が「エシカル消費」に興味・関心を持ったと回答

■ 受講者の感想

- 何かを消費する時、今だけや自分のことだけを考えるのではなく、未来や世界、社会にとってより良いものかを考えて選ぶことがエシカル消費に繋がるのだとわかりました。
- エシカル消費について詳しく聞いたのは初めてだったので、新しい学びがあって興味深かったです。
- 安いからという考えだけで商品を選ぶのではなく、自然環境のことも考えて選ぶようにすることを意識していきたいなと思いました。SDGsを達成するためにも大事な考え方だなと思いました。

Q3:今後、以下のような商品やサービスを選びたいと思いますか。



愛媛県における取組（暮らしの中にあるエシカル）

愛媛県高齢者大学校での講義(*)を実施 (令和8年1月20日) 受講者50名



■ 受講者の感想

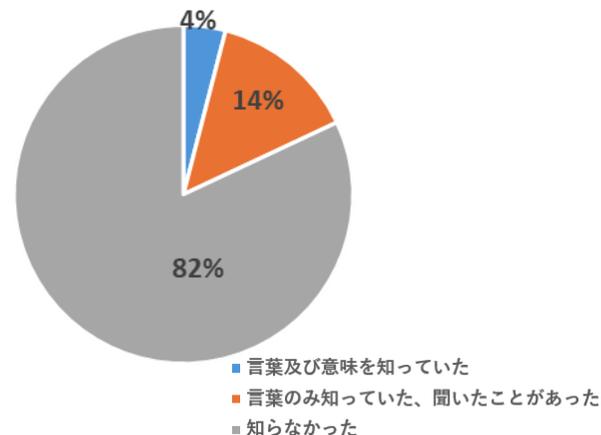
- ・ エシカル消費について、日々の生活の中で考え、地域社会に自分ができることをみつけ少しずつでもやっていけたらと思った。
- ・ 普段からなるべく無駄をなくす様こころがけて生活しております。高齢になると欲しい物もあまりなく、野菜も使い切るようにしています。今後もこの生活スタイルでやっていく予定です。物の溢れている社会、自分の見極めも含めて生活していきます。
- ・ エシカルという言葉は知りませんでしたが、ほとんど実行していて安心しました。ありがとうございました。

※愛媛県の委託を受け、愛媛県社会福祉協議会が主催する学校

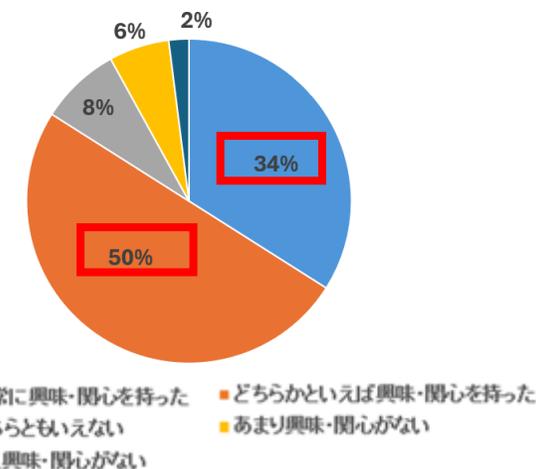
講義後のアンケート調査結果 (n=50)

講義前には「エシカル消費」の認知度が20%未満であったが、講義後には約85%が「非常に興味・関心がある」「どちらかといえば興味・関心がある」と回答

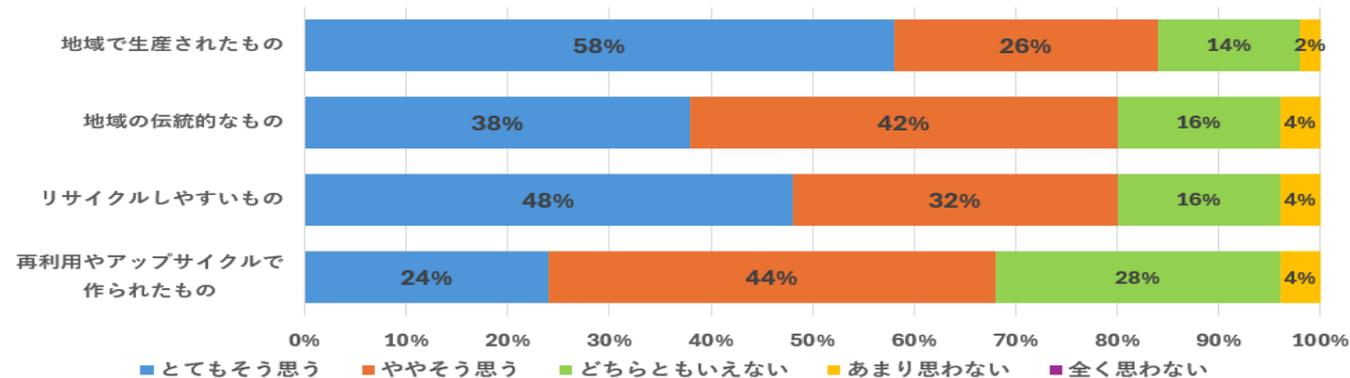
Q1:あなたは今回の講義を受講する前から、「エシカル消費」という言葉を知っていましたか。



Q2:あなたは今回の講義を受講して、「エシカル消費」について、どの程度興味・関心を持ちましたか。



Q3:今後、以下のような商品やサービスを選びたいと思いますか。



愛媛県における取組（暮らしの中にあるエシカル）

松山東高校での講義(※)を実施

(令和8年1月13日) 受講者約700名



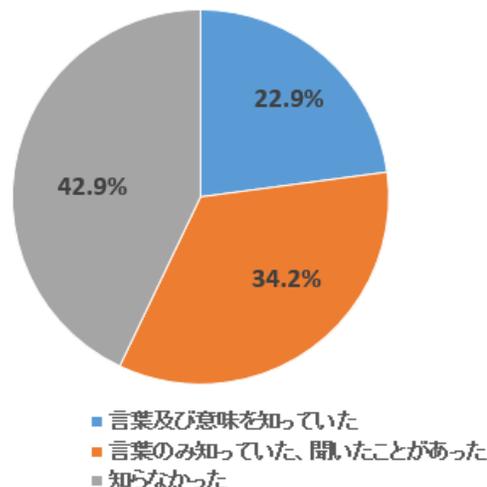
■ 受講者の感想

- 講義を通して、エシカル消費は「特別に意識の高い人がするもの」ではなく、日常の小さな選択の積み重ねだと気づいた。
- 環境問題と地域課題を結び付けて考えることがここまであまりなかったのでいい機会になりました。
- エシカル消費は環境に良いだけでなく、地域で生産されたものを使い、応援することも含むことが分かりました。

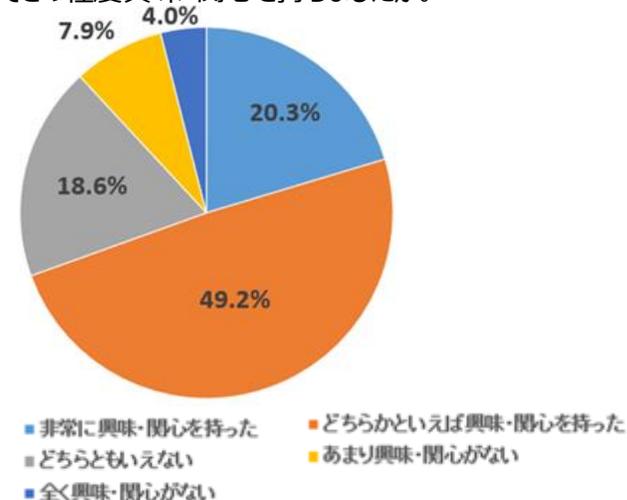
※愛媛県の実施する消費生活出前講座

講義後のアンケート調査結果 (n=354)

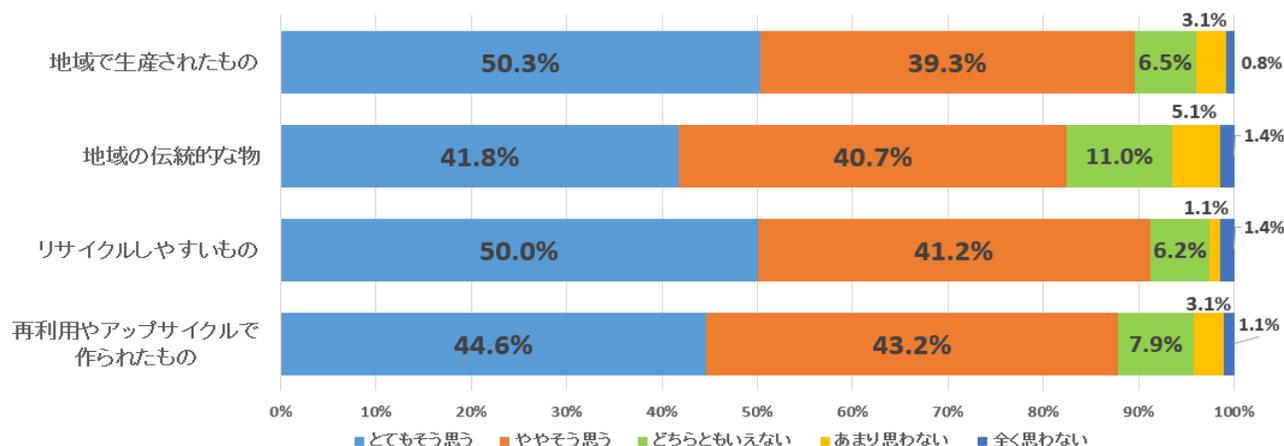
Q1:あなたは今回の講義を受講する前から、「エシカル消費」という言葉を知っていましたか。



Q2:あなたは今回の講義を受講して、「エシカル消費」についてどの程度興味・関心を持ちましたか。



Q3:今後、以下のような商品やサービスを選びたいと思いますか。



本日の内容

1. 現状・課題
2. 徳島県における取組（藍染×エシカル）
3. 愛媛県における取組（暮らしの中にあるエシカル）
4. **他の地域への展開**
5. まとめ

他の地域への展開

伝統的なものや地域資源をいかした産業は全国各地にあり、他の地域においても、【地域の〇〇】に着目したエシカル消費の普及啓発が可能

■ 藍のまるイロ エシカルワークショップ



… 藍のまるイロ … エシカルワークショップ

- 参加費：無料
- 時間：10:00~15:00
- 参加人数：40名様限定



藍の糸や裂き布をメインに毛糸や裂き布を織り込んでいろいろな色と模様のある織物「まるイロ」を作ります。いろいろな素材を組み合わせて自分だけのエシカルファブリックを作ってみましょう。糸や素材が織りかさなっていくことで色とりどりの愉快な「おしゃべり」が聴こえてくるようです。

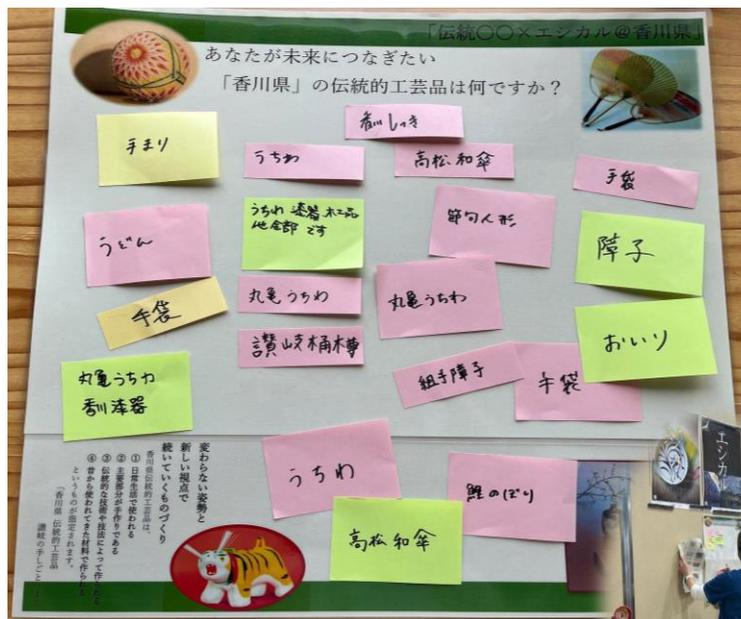
SLOW TOOL by SLOW LABEL
MARUIRO

丸い形のカラフルな織物「まるイロ」。身近なものを材料にバリエーションは無限大。



端切れや障がい者施設で藍染をした糸等を使用し、ものづくりを楽しみながら、人・社会・地域・環境への配慮を考えていただく契機となりました。

■ 香川県民にとっての未来につなぎたい伝統的工芸品についてお聞きしました



地域の伝統や地域資源をいかした産業に目を向けることをきっかけに、エシカル消費について知り、実践へとつながる契機となりました。

高松サポート合同庁舎 にぎわいフェスタ

四国財務局 × 中国四国農政局 × 消費者庁 共催
香川県拠点 新未来創造戦略本部

国の3機関が連携し、サポートエリアのにぎわいづくりに取り組みます

日時：令和8年2月15日(日) 10時~15時
(雨天決行)

場所：高松サポート合同庁舎 東玄関前、アイプラザ
(参加無料・事前申込不要)

※会場に駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

プラバンキーホルダーづくり、ベジチェック®, 手織り体験など楽しい企画がたくさん!

👉 イベント内容の詳細は裏面をチェック!

財務局

農政局

消費者庁

香川県スマート・フードドライブ推進キャラクター「たるとん」も登場

高松サポート合同庁舎にぎわいフェスタ
(四国財務局、中国四国農政局との共催) (令和8年2月)

本日の内容

1. 現状・課題
2. 徳島県における取組（藍染×エシカル）
3. 愛媛県における取組（暮らしの中にあるエシカル）
4. 他の地域への展開
5. **まとめ**

有識者アドバイス

岡山県消費生活センター 消費者教育コーディネーター 矢吹香月氏
(消費者庁新未来創造戦略本部 客員アドバイザー)

今回の取組は、地域の伝統をテーマにすることで、エシカル消費を考える良いきっかけとなったと評価できる。

特に、ワークショップと組み合わせるなどの小学生を対象にした企画は、親子で一緒に学ぶ機会を生み、**消費者教育が届きにくい親世代への効果的なアプローチ**となっていた。さらに、**伝統工芸品を切り口にした点も意義深く**、伝統があるものを大切に使う「モノを大切にする心」や「環境について考える」力を育てることから「お金の価値」や計画的な消費の重要性、価格だけでは測れない**価値観を共有する機会**になったと考える。

また、伝統工芸品は資源や作り手の確保がなければ存続できないという現実を知り、**継続のために行動する意識を育む**点でも有効だった。加えて、昔の日本では普通の暮らしがエシカルであったことを振り返り、高度経済成長以降の**大量生産・大量消費の中で失われた価値を見直す機会**となったことも、本取組の重要な意義といえる。

まとめ

- 地域の伝統産業は、その地域の消費者にとっては、エシカル消費を身近に感じることができ、実践のきっかけとなると考えられた。
- **伝統の体験（ワークショップ）と組み合わせることで、子どもから大人まで幅広い世代の消費者が楽しみながらエシカル消費を学ぶことができた。**
- 高齢の方は、エシカル消費の認知度が低かったが、**講義を通して言葉の意味や背景を理解することで興味が高まり、エシカル消費を日常生活に取り入れたいなどの感想**がみられた。なお、言葉は知らなかったが、既に実践していたとの感想もみられた。
- 地域の伝統が環境や人への配慮につながっている場合があり、**伝統に関わる仕事をする人のエシカル消費の気づき**にもなった。
- 地方の消費者行政部局に加え、**伝統（文化・産業）を所管する部門とも連携したエシカル消費の普及啓発**が可能になった。



- 伝統的なものや地域資源をいかした産業は全国各地にあることから、他の地域への展開を見据え、徳島県及び愛媛県で実施したモデルを発信